



# 国際化の最前線から



## Welcome Egypt!

(株)ダイヤモンド・ビッグ社 (地球の歩き方) マーケティング企画部 部長 勝政 直樹

エジプトでは、街を歩くと決まってこう声をかけられる。世界のどこにもない、2000年以上も前から観光地だったエジプトならではホスピタリティだ。一日に何度かこういうやりとりがあるだけで、他に何も特別なことがなくても、来てよかった、また来てみたい、不意にそんな気持ちになる。

世界屈指の観光地・エジプトを歩く外国人の心を動かすのは実は、ピラミッドなど稀有な遺跡それ自体の美しさというより、そんな美しさをこの目で見ようとはるばる国境を越えてきた旅人を歓迎し、ねぎらうエジプト人のホスピタリティなのだと思う。観光、グルメ、ショッピング、…、旅の魅力は数あれど、いちばんの想い出は、いつも最後にはひととの触れ合いだ。



日本で外国人の受け入れといえば、外国語ツールやスタッフ、免税やWi-Fiなど箱物(ハコモノ)を指していただけることが多い。ひるがえって、皆さまご自身が外国を旅するとき、主に求める受け入れは日本語や支払い、通信など箱物環境だろうか？

受け入れの本質はおそらくもっと単純だ。数ある目的地からその地を選んでくれた外国人をまずは歓迎し、ねぎらうホスピタリティ。カタコトの英語でも、ジェスチャーでも、日本語でもいい。歓迎の気持ちを表したり、笑顔を見せたり、困っている外国人にひと声かけてみる

こと。ホスピタリティは受け入れ環境であると同時に、それ自体がキラコンテンツでもある。

外国人の行き来が日常風景となる観光立国を目前に控え、地域活性化における観光の利は、地域差こそあれ、基本として鮮明だ。あらためて、皆さまの地域の生き活きとした未来は、外国人客なしで描けるだろうか？

仮に描けないのであれば、行動すべきはいま、何もしないことこそリスクだ。受け入れについていえば、本質は箱物というより、ホスピタリティにある。そして、ホスピタリティの資源は、カネではなくひとだ。この意味では、チャンスは等しく皆さまの地域にも開かれている。

地域の現状を踏まえ、まずは、行動すべきか見極めること。そして、行動すべきとなれば、目標(ターゲット)と期限(スケジュール)を明らかにすること。手段については、必ずしもカネ次第なものばかりではなく、目標に応じて多種多様にある。

### プロフィール

勝政 直樹 (かつまさ なおき)

2001年、ダイヤモンド・ビッグ社(地球の歩き方)に入社。2008年より訪日旅行メディア・マーケティング事業(「GOOD LUCK TRIP」シリーズおよび受託企画)の営業を務め、2014年より営業部長。「地球の歩き方」独自の旅行マーケティングノウハウ、アジア8カ国にわたる現地ネットワークを駆使し、全国で地域のマーケティングをトータルにサポートしている。

